九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[36_2]図書館情報 : 九州大学附属図書館報 : 36(2)

https://doi.org/10.15017/10678

出版情報：図書館情報. 36 (2), pp.19-36, 2000-09-30. 九州大学附属図書館
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

ISSN 0454-8213

九州大学附属図書館報

図書館情報

The Kyushu University Library Bulletin Vol. 36, No. 2 (2000)

目　　次

カリフォルニア訪書紀行……19
「古活字版源氏物語（無刊記）データベース」を公開 ……21
情報リテラシー教育と図書館……22
情報基盤センター開所式典について……23
＜新入生に薦める本（Ⅱ）＞
　萩原延寿著『遠い崖：アーネスト・サトウ日記抄』……24
＜学内トピックス＞
　中央図書館事務組織の改組について……25
　学内における図書資料配送サービスについて……25
　九大出版会コーナーを中央館に設置……26
　医学分館貴重古医書整理について……26
平成11年度CDサーバ（OVID, NSCDNet, Web of Science）利用統計 ……27
平成11年度九州大学附属図書館入館者統計……30
休日における図書館利用状況（平成11年度）……31
自著紹介……33
本学関係者著作寄贈図書……35

カリフォルニア訪書紀行

中　野　三　敏

六月の末、梅雨時の蒸暑を避けるように桑港へ向かった。大学院人文科学研究院の今西教授、図書館の古賀専門員それに私の三人とも、何しろ米国訪問は初めてのこと、先方の気候のことなどもさっぱり要領を得ぬまま出かけたのだが、大学院言語文化研究院の松原教授の出迎えを受けて空港駐車場へ向かうと、快晴の空と日陰の涼しさは、さすがに十数時間かけて飛んできた甲斐あり、すっかり気分をよくしたのが第一印象だった。其の後の五日間、申し分のない天候と涼しさに恵まれ、聞けば一年中こんなものだという。しかも遠望する山々は枯草ばかり、丁度晩秋の久住高原を思わせるのが、却って冬場は雨期で青々と芽ぶき、大層気分が良いのだそうだ。難波の葦は伊勢の浜荻の古諺はまだしも、日本の初夏はカリフォルニアの冬だとは、やはり旅はしてみるものである。

訪問先はバークレー校の東アジア図書館とスタンフォード大学図書館に絞って、まずはスタンフォー

ドへ。平たく広大なキャンパスに、フーバー・タワーを中心に据え、メキシコ風の赤い瓦屋根に統一された建物群は、ただ見事の一語に尽きる。大学の中心部にある大教会に何気なく入ってみて驚いた。内部は想像していたゴシック風のしつらえではなく、去年ラヴェンナの教会で息をのんだばかりの、くすんだ金と緑と赤のモザイクで、壁画からドーム型の天井画迄、一面に仕上げられた別天地であった。

図書館では寄贈コレクションの一つ、日本近世の絵本類五百余点を拝見し、貴重書選定の意見を乞われた。既に数年前、日大の粕谷宏紀氏の手で一応の分類整理が試みられていて、書庫の中で一度に全体を見ることが出来たので、殆ど手間どることもなく見終えたが、概要は元禄期以降の極く普通の絵本・絵入り本で占められており、寧ろその点に外国在来の絵本コレクションとしては異例の内容というべき特徴があった。現在我々のしり得る在外コレクションの殆どは、来日した外国人研究者やコレクターによって、撰び抜かれた、当時としても高価な稀覯本の、それも姿・形の極めて良好なものだけが纏められたものが多く、中でも絵本・絵入り本は、現在日本国内に極めて少ない色摺りの美本中心のものが多い。それがこの場合は、殆どが祐信絵本の並製本類や節用集或いは名所図会等の墨摺り本の中に、鹿児島版「成形図説」の色摺り本や、八文字屋本「傾城禁短気」などが混在するという有様で、撰書の厳密さはなく、普通の絵入り本を手当たり次第に集めたという趣の意外なものであった。

スタンフォード大学フーバー研究所東アジア図書館の書庫

米国の日本学は、他の諸外国と比べて格段の厚みと深さを備える。恐らく外国でこのような内容のものを活用することは、現在、米国の日本学以外では出来ないのではなかろうか。その意味でこのコレクションが米国に存在する意義は極めて大きい筈だという率直な意見を御伝えしておいた。

バークレー校の東アジア図書館には、旧三井文庫の写本群三千点が保管されており、仮の棒目録も出来ていた。先年日本でも立派な目録が刊行された版本群は、土地を違えて別置されているとの事で、今回はその写本類の中から私の興味をひいた数点を請求閲覧させて戴くと共に、館内の開架式書庫を一巡りさせて貰った。書架内の日本文学関係研究書類の充実ぶりは、今西教授ともども予想を裏切らぬものだった。少なくとも九州大学文学部書庫のそれを遙かに上廻るのは確実である。学問研究の土台構築に

カリフォルニア大学バークレー校東アジア図書館

かける姿勢の違いを、つくづく感じさせられる最も印象的なひとときであった。

写本群の中から私の撰んだものは次の五点「兇刀伝」一冊、安永頃の写かと思われるもので、白話小説モノかと思って請求してみたのだが違った。「山泉抄」二冊は人見竹洞撰とおぼしき類書で重野成斎の旧蔵本だった。「正夢後悔記」一冊は珍しい上方洒落本の一で板本はない。「紅梅書屋独語」一冊は古賀穀堂の随筆、「開飲酒序」一冊は佚山道人作と

目録にあったので喜んで請求したら、つまらない法帖だったのはご愛敬か。何れにせよこの一群の写本もやはりスタンフォードの絵本と同じく、恐らく日本の図書館でも極く普通本として扱われる江戸期の細々したもので、名家の自筆本や手沢本類は殆ど見えないのは、たまたま戦後の混乱期に、本来は日本国内に眠っているべきものが米国へ移されたものゆえ、当然のことでもあろうが、流石にこの文庫は今も米国研究者の利用度はひくいそうである。

しかし、恐らくそう遠くない未来に、これ等の書物の精査を通して、日本学会に名乗りを挙げてくる米国学究の足音が近づく気配を、キャンパス内の鬱蒼たる森の繁みの葉摺れの音や、谷のせせらぎに紛れながらも、確かに聞きとめ得たような気がしながら、快適な旅を終えさせて戴いた。有川館長のご配慮には深く感謝するばかりです。

カリフォルニア大学バークレー校東アジア図書館の閲覧室

（なかの　みつとし　文学部名誉教授）

「古活字版源氏物語（無刊記）データベース」を公開

平成８年度以降、図書館では本学所蔵の貴重資料の画像化を進めていますが、この「古活字版源氏物語（無刊記）データベース」もその事業の一環として公開するものです。文学部所蔵の『源氏物語』古活字版（無刊記）（54帖30冊）は、本文が藤原定家校訂の青表紙本系統で、近世初頭に刊行された印刷面の大変美しい典籍です。この種のものが全面的に画像化されて全国規模で公開されたことは、今日までまだその例を見ません。図書館では、以上の２つの点に意義をみとめて、このデータベースを作成、公開しました。

当データベースの大きな特徴は、検索手段として、池田亀鑑編著の『源氏物語大成』（中央公論社）校異編の該当ページ番号を画像に付加し、これを検索キーとしたところにあります。これによって、大部の画像データの中から目的の箇所を瞬時に取り出すことを可能にしました。変体仮名に不慣れであっても、この『源氏物語大成』を拠り所にして古活字版『源氏物語』の本文を読むことが出来るようになっています。

またこのデータベースには、本学大学院人文科学研究院の今西裕一郎教授が執筆された、大変詳しい解説も併設公開しています。

本データベース作成に当たっては、平成11年度附属図書館研究開発室員の今西裕一郎教授の指導の下に、文学研究科の大学院生の方々に多くの協力をいただきました。

（図書館ホームページ：http : //www.lib.kyushu-u.ac.jp）

情報リテラシー教育と図書館

南　俊朗

21世紀を目前にした現在、10年前には一部の企業や大学関係者のみに使われていたインターネットの世界が家庭にも爆発的に浸透し、今や常時接続環境の普及が始まろうとしています。すなわち、我々は膨大な量の情報にいつでもアクセス可能な時代の入り口にいるわけです。また、我々一人一人が世界に向けて、情報発信を行うことも容易になりました。世界中の人達と情報を共有できる、このようなネットワーク情報化社会で暮すためには、これまでとは違ったスキルの習得が必要であり、また、住みやすい環境をつくり維持していくための新しいマナーも必要となります。情報リテラシー［2］は、このような情報環境における生活能力を指す言葉であり、今後の情報化社会を生き抜くために、我々が身につけるべき必須科目でもあります。

情報リテラシー教育の中身を次のような３つの階層に分けます。

（1）コンピュータ操作技能
（2）情報活用能力
（3）情報倫理知識

まず、もっとも基礎となる技能としてコンピュータの操作技能の習得があります。キーボード配列の学習から始まり、パソコン操作などを会得する階層です。これは、（狭義の）コンピュータ・リテラシーとも呼ばれているもので、コンピュータを道具として使うための最低限の技能を指しています。

次に来るのが、情報活用能力です。これは、情報を検索する能力、それらを利用し、新しい情報を生み出す能力を含みます。どのような情報が必要かが明確でない状態で、自分の必要とする情報を明確化しつつ検索することを表現するために情報探索という言葉を使うこともありますが、この能力もこの階層に含まれます。情報リテラシー能力にとって、キーとなる部分です。インターネットから得られる情報は、玉石混交です。洪水にも例えられる大量の情報の中から、自分の目的にあった信頼性の高い情報を発見する能力も鍛えなければなりません。

最後に忘れてならないのは、いわゆる情報倫理に関する知識です。いつでも情報へアクセスし、発信できる環境が実現するということは、コンピュータへのパスワードや個人情報などの秘匿すべき情報が簡単にもれ、悪用される恐れが大きいことを意味します。他人のプライバシー情報を犯さない配慮と同時に自分の個人情報を守るための注意や工夫が必要です。そういった情報倫理に関する意識を高めることも情報リテラシー教育の重要な柱となります。

図書館は、情報活用能力を中心に、情報の提供や活用に関するサービス機関として、これまでも重要な役割を果たして来ました。押川六本松分館長の指摘［1］にもあるように、図書館は、人々の文化遺産である図書を保存する役割だけではなく、図書館利用者の便宜を図り、新しい時代に即した高度なサービスを利用者に提供していく重要な役割を担っています。近年のIT技術の進歩に伴い、電子図書館［4］サービスを拡充するなどの時代に即した変革がなされてきました。これからも、強力に、質・量両面に渡る利用者サービスの向上を進めていかなければなりません。

特に大学図書館は、情報リテラシーの専門家機関として、21世紀を担うべき学生に対する情報リテラシー教育において中心となるべき存在であると言えます。現に、いろいろな大学で、学生への情報リテラシー教育に図書館が中心的役割を果たしています。たとえば、京都大学では、情報探索入門というタイトルで図書館学や情報検索に関する広い範囲をカバーした教育が行われています［5］。また、新潟大学でも、図書館が、様々なテーマに関した情報リテラシー教育を行っています［3］。本学においても、新入生全員を対象とした情報教育が実施されています。これも、今後、ますます力を注ぐべきテーマです。

これまで述べてきたように、これからの図書館は、ネットワーク情報化社会の中での「情報館」として、図書館自体の電子化、ディジタル化を進めていき、

利用者に対する新たな図書館サービスへ向けて体制を整えていくことが重要です。また、大学図書館が、新世紀における図書館サービスの柱として、学生への情報リテラシー教育の中心的役割を果たしていくことに、大きな期待を寄せたいと思います。

（みなみ　としろう　附属図書館研究開発室助教授）

【参考文献】

［1］押川元重：図書館あれこれ，図書館情報，Vol. 36，No. 1，九州大学附属図書館，2000.

［2］鈴木康之：必修常識　情報リテラシー，NECクリエイティブ，1999.

［3］永井雅人（監修）：大学で役立つ情報検索法 情報図書館，「情報検索とその活用」編集委員会大学，新潟大学附属図書館，1998.

［4］長尾真：電子図書館，岩波科学ライブラリー15，1995.

［5］長尾真（監修），川崎良孝（編集）：大学生と「情報の活用」情報探索入門，京都大学図書館情報学研究会，1999.

情報基盤センター開所式典について

九州大学情報基盤センターは、学術情報の通信基盤を高度に機能させ、大学における教育研究活動の支援を強化するため、旧大型計算機センター等４施設及び附属図書館の一部を統合し、平成12年４月に設立された全国共同利用施設である。

附属図書館内に電子図書館掛と電子情報サービス掛を置き、附属図書館と共同体制の下に研究用データベースの構築、電子情報の配信及び電子情報サービスの充実に取り組んでいる。この発足を記念した開所式典が６月21日（水）に、附属図書館視聴覚ホールにおいて行われた。

式典には、文部省をはじめ、各大学大型計算機センター及び学内関係者約100名が出席された。松尾情報基盤センター長が設立の目的、使命及び設立に際してご尽力いただいた方々へのお礼を述べ、続いて文部省学術国際局尾崎学術情報課長が、「社会の情報化において大学が果たすべき先進的な役割のモデルを提供することを期待する」との、中曽根文部大臣（当時）の祝辞を代読の後、杉岡九州大学総長が挨拶、齋藤東京大学情報基盤センター長が祝辞を述べられた。

式典終了後、学内ネットワークを活用した３D－IES（Interactive Education System）による、音声と映像による外国語教育のデモンストレーションを行ったのち、100インチマルチメディア掲示板を使用して、九州大学の電子図書館サービスについて概略の説明があった。その際、ホームページに掲載している貴重資料画像データベースのほかに、Gigaviewを使用した超高精細画像検索システムにより、「福岡城下町・博多・近隣古図」と「蒙古襲来絵詞」の紹介があった。

（情報基盤センター電子情報サービス掛）

「蒙古襲来絵詞」を説明される　有川附属図書館長

新入生に薦める本(Ⅱ)

萩原延寿著『遠い崖：アーネスト・サトウ日記抄』

村 岡 克 紀

明治維新をはさんで通算25年間日本に滞在したイギリスの外交官の日記を基にした本書に底流として一貫して流れるのは、当時の日本人に対する敬意である。生麦事件のあと始末やイギリス公使館焼きうちなど生命の危険にさらされながら、また開国の混乱の中で、それらに対処する日本側の対応を見守り、基本的にはそれが信を置くに値するとして協力していく姿が清々しい。中でも西郷隆盛、勝　海舟、岩倉具視らに対する人間としてのゆるぎない信頼感を見ると、当時の列強の植民地化政策の中で、日本が独立を保ち得たことに対するこれら先覚者たちの存在の大きさを改めて実感させられる。

本書は朝日新聞夕刊に1976年10月から1990年12月までの14年余にわたり1947回掲載されたものに加筆して14巻の予定の単行本として刊行が続けられているもので、現在第８巻の維新直後までに至っている。新聞掲載時にも手に汗をにぎる思いで読み進み、毎日の夕刊を開くのが楽しみであった。そのうちの第１巻のみが1980年に刊行されたのを機に読み直してその内容とともに流麗な文章に改めて感動し、続刊の発行が待たれた。その後ずっと発刊の話がないため、私ごとながら10年ほど前に新聞社に、つづいて著者に出版計画を問い合わせたところ、「著者多忙により計画たたず」ということであきらめつつあった。それが「朝日新聞100周年記念の一環として」発行されるとの晴天の霹靂のような刊行案内があり、1998年10月より再度第１巻からの発行が始められたのである。この本の刊行を同じ思いで迎えた読者は全国に数多いことであろう。

それぞれの巻の副題、1. 旅立ち、2. 薩英戦争、3. 英国策論、4. 慶喜登場、5. 外国交際、6. 大政奉還、7. 江戸開城、8. 帰国、も適切であり、これを見るだけでこの若き英国外交官（1862年に初来日した時は19歳であった）が立ち会った明治維新の出来事が大観できる。それぞれの出来事を、サトウの驚くべき詳細な日記を中心にすえ、それを英国側および日本側の公文書等により肉づけして流れを見せる著者の手際も鮮やかで、これは歴史を下敷きにした大ロマン、あるいはサトウを主人公にした大河小説である。また、当時の九州から北海道までを大部分は徒歩で歩いての日本人観察も、基本的には好意的で興味深い。時々現れる女性に関するコメントも若き外交官の素顔を見るようでほほ笑ましい。

新聞掲載時の記憶では、これからの第９巻以降で西南戦争はじめ多くのイベントに立ち会い、最後に「今や我々外国人はこの日本から静かに退場していくのです」という言葉を残して日本を離れたのが1906年である。これは維新からの約40年と、日清、日露戦争を経て国際的な舞台での活動に自信をつけ、その後結果的に坂道をころげ落ちるような破滅へ至る約40年との分水嶺であった。

明治維新前後と同様に（多分それ以上に）将来が不透明な現在にあって、当時の日本人、特に先覚者がどう考え行動したかは、今後を考える上での大きなヒントになる筈である。

（むらおか かつのり 大学院総合理工学研究院教授）

学内トピックス

中央図書館事務組織の改組について

平成12年度から理学部等図書掛及び農学部図書掛の附属図書館への事務一元化により事務組織を次のように再編した。

再　編　前	再　編　後
中央図書館	中央図書館
情報管理課　庶務掛	情報管理課　庶務掛
会計掛	会計掛
図書情報掛	図書情報第一掛
雑誌情報掛	図書情報第二掛
情報サービス課　閲覧掛	雑誌情報掛
相互利用掛	情報サービス課　情報サービス第一掛
参考調査掛	情報サービス第二掛
情報システム課　データベース掛	相互利用掛
電子情報掛	参考調査掛
理学部等　図書掛	情報システム課　データベース掛
農 学 部　図書掛	電子情報掛

また、学内の大型計算機センター等情報関連の４施設が統合され、平成12年度から情報基盤センターに改組された。このセンターに電子図書館関連業務を行うため新設された電子図書館掛、電子情報サービス掛を中央図書館及び医学分館に配置することにより、センターと図書館の間の緊密な連携が可能となり、電子的図書館資料の作成・発信、収集・配信といった新しい図書館サービスができるようになった。

改　組　後

情報基盤センター　　附属図書館分室
　　電子図書館掛　　（中央図書館情報システム課）
　　電子情報サービス掛（中央図書館情報サービス課、医学分館）

（情報管理課）

学内における図書資料配送サービスについて

１．目的

キャンパス間の図書館資料配送システムを構築し、利用者が学内各キャンパスの図書館に所蔵する資料を最寄りの図書館（分館）において借用・返却を可能にすることにより、全学の図書館資料の利用促進を図るとともに、利用者サービスを改善する。

２．対象キャンパス及びサービス区分

本サービスは当面、次の４キャンパス間で実施する。

ただし、筑紫地区については、各研究棟に資料が分散しているため、当面は貸出サービス（受付）は行わない。

キャンパス	サービス区分(注)	サービス窓口
箱 崎 地 区	受付・依頼	中央図書館情報サービス第一掛
病 院 地 区	受付・依頼	医学分館閲覧掛
六本松地区	受付・依頼	六本松分館閲覧掛
筑 紫 地 区	依 頼 の み	総合理工学府等事務部図書掛

（注）
受付：他キャンパスから当館所蔵資料の貸出申込を受け付ける。
依頼：他キャンパスの図書館に対して資料の貸出依頼を行う。

３．サービス対象者

本学在籍者（大学院生以上）で図書館利用者票を所持している者

４．サービス対象資料

中央図書館（理学部、数理研、農学部資料を含む)、医学分館及び六本松分館の館内に配架されている資料に限る。(その他の学部所蔵資料や研究室備え付け資料は対象資料にはならない。)

なお、雑誌資料類は複写サービスを利用することとし、原則として本サービスの対象資料とはしない。

５．利用条件

貸出可能冊数：５冊以内　　貸出期間：２週間以内

６．配送の方法

当面は学内便を利用するが、利用状況によっては業者委託に切り替える。

７．利用手順

①利用者は当該資料の所在を確認の上、最寄りの図書館（依頼館）に借用申込を行う。
②依頼館は資料所蔵館（受付館）へ借用依頼
③受付館は資料現物を確認し、貸出処理後学内便で依頼館に資料配送
④依頼館は資料受領後、利用者へ連絡
⑤利用者は依頼館で資料受け取り
⑥利用者は資料利用後、依頼館へ返却
⑦依頼館は資料受領後、受付館へ資料配送
⑧受付館は資料受領後、返却処理

８．実施時期

平成12年４月10日より実施

（情報サービス課）

九大出版会コーナーを中央館に設置

中央図書館に九大出版会より、現在まで同会にて出版された約600冊の図書の寄贈があり、「九大出版会コーナー」として設置し利用に供している。

なお、今後同会において図書が出版されるたびに寄贈していただく予定である。

（情報サービス課）

医学分館貴重古医書整理について

箱崎地区旧保存図書館には医学部蔵書が５万冊ほど保管されている。この中に、先達の収集になる16世紀から19世紀にわたる貴重な古医書が多数存在することが、大学院言語文化研究院のヴォルフガング・ミヒェル教授の探索により指摘されていた。

このたび、総長裁量経費により整理費が措置されたので、全面的な再調査を実施し、２千冊余を医学分館貴重書庫に移管した。現在、発行年代順に整理分類し遡及目録入力作業を継続中である。また、附属図書館研究開発室事項「医学分館所蔵貴重古医書のデータベース化及び医史学的、書誌学的な調査研究」に採択され、ミヒェル教授による指導のもと、原文や図版等の画像と多様な検索システムによりインターネット上でも公開・利用できるよう計画を進めているところである。

来る2003年は、本学医学部創設100周年記念にあたり、福岡市で関連学会等の開催も予定されており、医学分館貴重書の企画展示などにより多彩な話題を提供できるであろう。

（附属図書館医学分館）

平成11年度　CDサーバ利用統計（1999年４月～2000年３月）

A. OVID Net 2 データベース統計（中央図書館サーバ）――利用者登録が必要です。

部　　局	Current C	ERIC	MEDLINE	PsycLIT	合　計
図書館	5,489	151	2,704	265	8,609
文学部	19	8	105	704	836
教育学部	4	203	8	997	1,212
法学部	3	0	10	0	13
経済学部	5	0	3	0	8
理学部	3,518	8	1,509	0	5,035
医学部	4,040	77	61,437	0	65,554
歯学部	923	4	6,143	0	7,070
薬学部	2,787	4	10,146	0	12,937
工学部	8,458	26	1,407	2	9,893
農学部	6,992	21	5,473	1	12,487
大学教育センター	579	0	154	0	733
生体防御医学研究所	139	2	2,844	0	2,985
応用力学研究所	55	0	0	0	55
健康科学センター	2	23	351	3	379
人間環境学研究科	0	70	0	463	533
システム情報科学研究科	47	1	1	0	49
比較社会文化研究科	38	0	133	0	171
総合理工学研究科	1,237	4	22	0	1,263
機能物質科学研究所	710	1	21	0	732
医療技術短期大学	0	7	170	0	177
部 局 等 計	35,045	610	92,641	2,435	130,731

＊利用実績がない部局は統計に載せていません。

＊提供データベース内訳

・Current C : Current Contents. All Editions（主要雑誌の最新目次情報、抄録付き）毎週更新、収録分野（１）Agriculture, Biology & Environmental Sciences（２）Arts & Humanities（３）Clinical Medicine（４）Engineering, Computing, & Technology（５）Life Sciences（６）Physical, Chemical & Earth Sciences（７）Social & Behavioral Sciences

・ERIC（教育学分野データベース、抄録を含む）毎月更新、1966～

・MEDLINE（医学生物学分野データベース、抄録を含む）毎月更新、1966～

・PsycLIT（心理学分野データベース、抄録を含む）年４回更新、1887～

＊CDSR : The Cochrane Database of Systematic Reviews. とBest E : Best Evidence. は12月までのトライアルデータベースのため、統計にふくめていない。

B. NSCDNetデータベース統計（医学分館サーバ）――学内LANから利用できます。

部　　局	CACD	医中誌	JCR	雑索	合　計
図書館	515	413	415	1,220	2,563
文学部	0	6	0	7	13
教育学部	1	28	10	890	929
法学部	6	44	15	450	515
経済学部	2	1	0	35	38
理学部	80	6	39	11	136
工学部	266	26	27	103	422
有機化学基礎研究センター	21	0	2	1	24
システム情報科学研究科	2	1	1	3	7
農学部	91	11	116	98	316
医学部	368	10,953	1,228	1,204	13,753
歯学部	41	135	83	17	276
薬学部	77	30	14	13	134
比較社会文化研究科	23	70	67	531	691
総合理工学研究科	89	78	138	87	392
大型計算機センター	5	12	1	1	19
健康科学センター	4	202	25	17	248
医療技術短期大学	2	147	31	82	262
生体防御医学研究所	0	82	17	4	103
応用力学研究所	3	1	5	4	13
機能物質科学研究所	166	0	14	1	181
遺伝情報実験施設	0	1	1	0	2
事務局	5	2	0	89	96
その他	27	22	15	54	118
部 局 等 計	1,794	12,271	2,264	4,922	21,251

＊利用実績がない部局は統計に載せていません。

＊提供データベース内訳

・CACD ： Chemical Abstracts12CI－13CI on CD. 1987～1996.（化学分野データベース、抄録付き）

・医中誌：医学中央雑誌　1987～

・JCR ： Journal Citation Reports. 1998.（インパクトファクター・データ）

・雑索：雑誌記事索引　1975～

Web of Science ： SCI Expanded利用状況――学内LANから利用できます。

	4月～8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
中央図書館	10,814	2,640	3,475	3,532	5,586	2,787	3,198	2,832	34,864
医学分館	1,535	192	197	189	229	182	229	520	3,273
六本松分館	173	2	3	1	7	4	1	0	191
大型計算機センター	1,222	219	112	463	287	241	184	174	2,902
文学部	3	3	0	0	1	0	0	0	7
教育学部	35	0	12	2	8	1	0	2	60
法学部	45	5	4	2	1	7	4	14	82
経済学部	88	2	0	0	0	149	48	88	375
理学部	16,294	3,268	3,167	4,123	3,146	3,034	3,187	2,808	39,027
数理学研究科	138	5	68	16	9	8	1	2	247
システム情報科学研究科	1,331	45	90	135	75	256	118	73	2,123
工学部	16,997	3,407	4,244	3,760	2,643	3,502	4,090	3,843	42,486
農学部	9,914	1,907	1,878	2,347	1,709	1,447	2,628	2,406	24,236
医学部	5,882	1,778	955	1,720	1,299	2,268	1,063	630	15,595
歯学部	1,273	723	514	367	278	597	279	138	4,169
薬学部	2,862	548	744	933	632	258	468	543	6,988
医療技術短期大学	3	1	0	0	1	0	0	1	6
生体防御医学研究所	3,104	308	230	276	291	242	217	112	4,780
健康科学センター	427	16	7	7	6	26	12	2	503
応用力学研究所	458	489	47	64	24	222	132	54	1,490
総合理工学研究科	4,794	1,772	2,253	1,433	1,364	1,206	1,163	1,011	14,996
春日地区管理	123	1	30	216	41	4	77	168	660
機能物質科学研究所	4,308	325	605	406	597	458	734	679	8,112
六本松地区	5,831	1,072	2,073	1,013	885	592	1,366	1,005	13,837
その他	1,516	150	46	42	88	69	22	389	2,322
合　　計	89,170	18,878	20,754	21,047	19,207	17,560	19,221	17,494	223,331

＊4月～8月はVol.35,No.2（1999）で既に報告したものである。

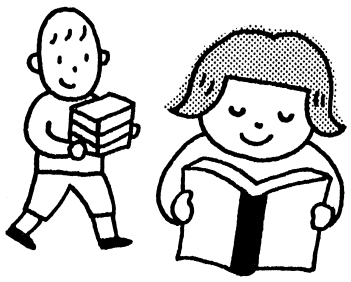
平成11年度九州大学附属図書館入館者統計

部局	中央図書館（人）	%	医学分館（人）	%	六本松分館（人）	%	合計（人）	%
文学部	19,388	5.79	38	0.02	11,257	6.31	30,683	4.57
教育学部	5,064	1.51	49	0.03	4,306	2.41	9,419	1.4
人間環境学研	5,669	1.69	0	0	0	0	5,669	0.84
法学部	45,191	13.5	25	0.02	21,682	12.16	66,898	9.95
経済学部	18,583	5.55	80	0.05	14,687	8.24	33,350	4.96
理学部	64,081	19.14	836	0.53	24,722	13.86	89,639	13.34
数理学研究科	8,950	2.67	0	0	823	0.46	9,773	1.45
工学部	73,188	21.86	375	0.24	51,611	28.94	125,174	18.63
システム情報	3,202	0.96	0	0	0	0	3,202	0.48
農学部	66,677	19.92	1,280	0.81	18,841	10.56	86,798	12.92
医学部	3,168	0.95	78,936	49.66	5,553	3.11	87,657	13.04
医学部附属病院	43	0.01	11,974	7.53	1	0	12,018	1.79
歯・歯学部病院	842	0.25	16,867	10.61	5,091	2.85	22,800	3.39
医療短大	475	0.14	20,223	12.72	81	0.05	20,779	3.09
薬学部	1,562	0.47	15,785	9.93	3,531	1.98	20,878	3.11
生医研	10	0	957	0.6	0	0	967	0.14
比文研	3,308	0.99	34	0.02	11,738	6.58	15,080	2.24
言語文化部	215	0.06	6	0	704	0.39	925	0.14
大学教育研究センター	96	0.03	1	0	281	0.16	378	0.06
総合理工学研究科	2,598	0.78	23	0.01	35	0.02	2,656	0.4
応用力学研究所	41	0.01	18	0.01	0	0	59	0.01
機能研	95	0.03	46	0.03	4	0	145	0.02
健康科学センター	2	0	39	0.02	51	0.03	92	0.01
石炭研究資料センター	47	0.01	0	0	18	0.01	65	0.01
大型計算機センター	16	0	6	0	0	0	22	0
情報処理教育センター	1	0	0	0	0	0	1	0
ベンチャービジネスラボラトリー	21	0.01	0	0	0	0	21	0
図書館（注）	178	0.05	7,313	4.6	1,601	0.9	9,092	1.35
事務局	124	0.04	4	0	8	0	136	0.02
学務部	3,434	1.03	11	0.01	29	0.02	3,474	0.52
放送大学	377	0.11	0	0	5	0	382	0.06
その他（他大学）	1,759	0.53	626	0.39	1,562	0.88	3,947	0.59
その他（一般市民）	6,357	1.9	3,399	2.14	115	0.06	9,871	1.47
合計	334,762	100	158,951	100	178,337	100	672,050	100

（注）利用者票不携帯学内利用者及び仮カード利用者等

休日における図書館利用状況（平成11年度）

	中央図書館		六本松分館		医学分館	
開館日	土・日・祝日		土・日のみ（祝日は除く）		土・日・祝日	
	入館者数	開館日数	入館者数	開館日数	入館者数	開館日数
4月	1,881人	6日	769人	9日	1,018人	9日
5月	5,368人	12日	1,434人	13日	1,524人	13日
6月	3,567人	8日	1,016人	8日	1,367人	8日
7月	4,099人	10日	1,338人	10日	1,392人	10日
8月					721人	5日
9月	8,337人	10日	4,506人	10日	3,164人	10日
10月	4,038人	10日	891人	11日	2,108人	11日
11月	3,576人	10日	966人	10日	3,615人	9日
12月	3,193人	9日	879人	9日	1,348人	9日
1月	4,004人	9日	1,340人	7日	1,893人	9日
2月	6,673人	9日	3,397人	8日	3,046人	9日
3月	2,414人	9日	407人	9日	1,087人	9日
合計	47,150人	102日	16,943人	104日	22,283人	111日
1日平均	462人		163人		201人	



● 人　事　異　動 ●

（平成12年６月～平成12年８月）

（中央図書館）

６．２　齊藤　亜矢　相互利用掛（情報サービス第一掛から）

●記事の訂正

Vol. 36, No. 1. p. 13の（教育学部等）の人事異動の記事中、上から９行目の常岡正子（図書掛）の異動は４月１日付け、医学分館受入目録掛です。大変ご迷惑をおかけしました。お詫びして訂正させていただきます。

● 図　書　館　日　誌 ●

（平成12年６月～平成12年８月）

６．１　平成12年度国立情報学研究所 ILL システム地域講習会（２日まで）九州大学会場
15　第７回電子ジャーナルの導入に関する検討 WG　（中央図書館）
27　第47回国立大学図書館協議会研究集会・分科会主査打合せ（金沢市）
28　第47回国立大学図書館協議会総会（29日まで）（金沢市）
28　平成12年度第１回 NACSIS－IR データベース実務研修（30日まで）（国立情報学研究所）
30　外国雑誌センター館会議（一橋大学）

７．５　西洋古典資料保存講習会（７日まで）（一橋大学）
6　第８回電子ジャーナルの導入に関する検討WG（中央図書館）
6　科研費法制史文献・画像データベース作成委員会打合会（中央図書館）
12　全学図書系掛長会議（中央図書館）
14　福岡市総合図書館運営審議会（福岡市総合図書館）
29　九州地区国立大学附属図書館ソフトボール大会（九州大学）
31　平成12年度館長会議（中央図書館）
31　第171回附属図書館商議委員会（中央図書館）

８．３　第２回図書館情報編集委員会（中央図書館）
23　平成12年度図書館等職員著作権実務講習会（25日まで）文化庁主催

自著紹介

菊竹淳一（大学院人文科学研究院教授）

『高麗時代の仏画』

［文学部図書室　美学730／135］

10世紀から14世紀にわたり朝鮮半島を統治した高麗王朝は、優れた文化財を数多く産み出しているが、とりわけ仏教美術に注目すべきものが多い。そのなかで、仏教絵画は、絢爛華麗な装飾性により東アジアの仏教美術に異彩を放つ存在である。ただ、その価値については国際的評価が大層遅れていた。これは基礎となる文献資料に良質なものが少なかったことによるものであろう。本書の出版は、世界にのこる133点の高麗仏画のすべてを原色版により掲載し、詳細なデータに至るまで記録していることに特色があり、さらに、文献資料、年表、先行研究文献などを加えている。これにより、高麗仏画の研究に確乎たる基礎が形成され、今後の研究発展に明確な座標軸が生まれたものと自負している。執筆には、菊竹、鄭于澤、井手誠之輔、朴銀郷など本学美学・美術史研究室の卒業生が当たっており、本学が韓国文化研究の世界的な存在であることも物語っている。なお、本書は、1997年にソウルで刊行された韓国語版の日本語版であることを申し添えておく。

田中俊一（大学院数理学研究院教授）

『位相と論理』

［中央図書館　411.73／Ta84］

位相は実数や空間における点や部分集合の相互関係を対象とする数学の分野で、集合、代数系とともに数学の基礎を形成している。一方論理はギリシャ時代からの長い歴史をもつ学問であり、20世紀には数理論理学として目覚ましい発展を遂げた。この位相と論理を結びつけるのがブール代数である。

本書は代数系、位相などの初歩を学んだ、あるいは学びつつある数学、情報系の学部学生を想定して書いた入門書である。論理の知識は仮定していない。むしろ数理論理学を特別視せずに「普通の」数学として扱うことに努めている。

なお、筆者のホームページhttp : //homepage.mac.com/stanaka3/には本書の序文と正誤表がある。

高尾征治（大学院工学研究院助手）

『反応系の撹拌混合技術』

［中央図書館　571.3／Ta48］

この度、表記拙著「反応系の撹拌混合技術」を出版しましたので、ご案内申し上げます。

早いもので、1967年以来、30年間、師事した村上泰弘教授が他界されてから４年が過ぎましたが、拙著の原稿は、この間体験した空白の一年（1998）を活用して書き上げたものです。かつて、師が空白の

一年(1976年)を活用して「重合反応装置の基礎と解析」培風館（1976）を書き上げたのを見習いつつ…。

拙著の出版を思い至ったのは、学術上は、反応を伴う混合現象の解釈をめぐってマクロ・ミクロ混合論争を体験し（1977)、後に、後述の無次元数qに導かれDanckwertsを越える混合反応関係式が導けた（1998）からです。

実用上は､論争決着後､掲載なった学術論文(1978)や取得できた学位論文（1983）でオリジナルに提唱した無次元数q（＝反応速度／混合速度）が、独創的な大型翼の開発も相まって撹拌の消費エネルギーを半減できるパワーを秘めていることが企業現場で実証されたからです（1995)。

最終章には「反応系の撹拌混合技術と哲学の関係性」を収め、前拙著「脳内パラダイム革命がもたらす新しい宇宙生命像」徳間書店（1996）へつながった若き日の哲学の歩みにも言及しています。

ご一読頂きコメントなどお寄せ頂ければ幸いです。

秋元浩一（大学院農学研究院教授）

『千年の歴史の味､堂上蜂屋柿』

［中央図書館　628.2／A 35］

堂上蜂屋柿は千年に亘る歴史を持ちながら、未だ纏まった学術的報告が見られませんでした。堂上蜂屋柿よ永遠なれ！と、その存在を誇りに思い、それが地域の活力のもとにもなっている、この極上の干し柿をめぐって、これまで人々が織りなしてきた歴史と長い時を経て伝承された微妙な製法にメスを入れたのが本書です。地域ぐるみで堂上蜂屋柿の歴史と技術を守り育てて行こうとしている人々の力は、地域の子どもたちの輝く目にも表れていました。蜂屋小学校にはいじめや登校拒否が見あたらないのもうなずけます。本書の中から、地域活性化は人づくりからという極意が伝わってきます。技術面ではポイントをついた表現に、堂上蜂屋柿に関わってきた人は本書の中にこれからの創意工夫のヒントを見つけるでしょうし、今まで縁のなかった人は干し柿づくりに挑戦したくなるでしょう。本書の内容があなたの手に伝わり、形になっていく過程では、先人の知恵に感じ入り、仕上がっていく味に古来の日本がよみがえるでしょう。

秋元浩一（大学院農学研究院教授）

『CAI:コンピュータを食べてしまう先生と生徒たち』

［中央図書館　375.199／A 35］

面白さに惹かれてコンピュータをかじって、コンピュータがいつのまにか血肉になっていたという、先生と生徒たちの物語の中からCAI 部分を書き出したのが本書です。教育現場では理解度の異なる生徒たちを相手に様々な取り組みがなされています。コンピュータを活用した展開も色々みられますが、多忙な現場の先生が創作するには難しいシステムが多いのです。本書は手作りのCAI 作成システムを使い、第一線の専門の先生方が独自の教育内容を作り上げていく過程と実際の教材にまで高めたCAI のいくつかを紹介したものです。また、本書で紹介するCAI のための手づくりシステムはシミュレーションや検索システムにも適用できます。シミュレーションが可能になりますと実技に入る前に十分な学習効果を上げることが出来ます。検索システムでは植物の外観から植物名を検索する等の機能を持つことも出来ます。大昔の機種を対象にした単独で動作するシステムですが、このノウハウはインターネット環境にも応用できるでしょう。

本学関係者著作寄贈図書

蔵書の充実を図るため、図書館では著作物刊行の節は一部ご寄贈くださるようお願いしております。今回は次の教官からご寄贈いただきました。厚く御礼申し上げます。

〔中央図書館〕

山口宗之（教養部名誉教授）
「陸軍と海軍：陸海軍将校史の研究」
山口宗之著
清文堂出版　2000
［中央図書館　393.2／Y 24］

高尾征治（大学院工学研究院助手）
「反応系の撹拌混合技術」
高尾征治著
化学工業社　2000
［中央図書館　571.3／Ta 48］

吉川　敦（大学院数理学研究院教授）
「フーリエ解析入門」
吉川　敦著
森北出版　2000
［中央図書館　413.59／Y 89］

田中俊一（大学院数理学研究院教授）
「位相と論理」
田中俊一著
日本評論社　2000
［中央図書館　411.73／Ta 84］

秋元浩一（大学院農学研究院教授）
「千年の歴史の味、堂上蜂屋柿」
秋元浩一著
新農林社　2000
［中央図書館　628.2／A 35］

秋元浩一（大学院農学研究院教授）
「CAI：コンピュータを食べて
しまう先生と生徒たち」
秋元浩一著
養賢堂　1997
［中央図書館　375.199／A 35］

〔文学部〕

菊竹淳一（大学院人文科学研究院教授）
「高麗時代の仏画」
菊竹淳一、鄭　于澤責任編集
時空社　2000
［文学部図書室　美学／730／135］

〔筑紫中央図書室〕

柳　哲雄（応用力学研究所教授）
「海洋観測データの処理法」
柳　哲雄著
恒星社厚生閣　1993
［筑紫中央図書室　558.3／Y 52］

及川正行（応用力学研究所教授）
「多変数の微積分」
マイベルク，ファヘンアウア著；及川正行訳
サイエンス社　1996
［筑紫中央図書室　413.3／Me 96］

及川正行（応用力学研究所教授）
「常微分方程式」
マイベルク，ファヘンナウア著；及川正行訳
サイエンス社
［筑紫中央図書室　413.62／Me 96］

及川正行（応用力学研究所教授）
「フーリエ解析」
マイベルク，ファヘンアウア著；及川正行訳
サイエンス社　1998
［筑紫中央図書室　413.59／Me 96］

及川正行（応用力学研究所教授）
「偏微分方程式、変分法」
マイベルク，ファヘンアウア著；及川正行訳
サイエンス社　1999
［筑紫中央図書室　413.63／Me 96］

及川正行（応用力学研究所教授）
「偏微分方程式」
及川正行著
岩波書店　1997
［筑紫中央図書室　413.63／O 32］

柳　哲雄（応用力学研究所教授）
「潮汐・潮流の話：科学者になりたい
少年少女のために」
柳　哲雄著
第２版　創風社出版　1992
［筑紫中央図書室　452.6／Y 52］

柳　哲雄（応用力学研究所教授）
「潮目の科学：沿岸フロント域の
物理・化学・生物過程」
柳　哲雄編
恒星社厚生閣　1990
［筑紫中央図書室　452.6／Y 52］

柳　哲雄（応用力学研究所教授）
「沿岸海洋学：海の中でものはどう動くか」
柳　哲雄著
改訂版　恒星社厚生閣　1994
［筑紫中央図書室　452／Y 52］

柳　哲雄（応用力学研究所教授）
「潮の満干と暮らしの歴史」
柳　哲雄著
創風社出版　1999
［筑紫中央図書室　452.6／Y 52］

柳　哲雄（応用力学研究所教授）
「風景の変遷：瀬戸内海」
柳　哲雄著
創風社出版　1994
［筑紫中央図書室　217.4／Y 52］

柳　哲雄（応用力学研究所教授）
「瀬戸内海の自然と環境」
柳　哲雄編著
瀬戸内海環境保全協会　1998
［筑紫中央図書室　402.917／Y 52］

柳　哲雄（応用力学研究所教授）
「海の科学：海洋学入門」
柳　哲雄著
改訂版　恒星社厚生閣
［筑紫中央図書室　452／Y 52］

柳　哲雄（応用力学研究所教授）
「風景の構造」
柳　哲雄著
創風社出版　1990
［筑紫中央図書室　304／Y 52］

柳　哲雄（応用力学研究所教授）
「Sustainable development in the Seto Inland
Sea, Japan : from the viewpont of fisheries」
Tomotoshi Okaichi and Tetsuo Yanagi（eds.）
Tokyo : Terra Scientific Publishing, c1997.
［筑紫中央図書室　663／O 38］

柳　哲雄（応用力学研究所教授）
「Coastal oceanography」
Tetsuo Yanagi.
Tokyo : Terra Scientific Publishing, c1999.
［筑紫中央図書室　452／Y 52］

柳　哲雄（応用力学研究所教授）
「Interactons between estuaries, coastal seas
and shelf seas」
Tetsuo Yanagi（ed.）
Tokyo : Terra Scientific Publishing, c1999.
［筑紫中央図書室　452.12／Y 52］

●記事の訂正

Vol. 36, No. 1. p. 17の本学関係者著作寄贈図書の記事中、「マルチメディア時代のドイツ語教育」の寄贈者及び著者表記に誤りがありましたので、お詫びして訂正いたします。

（誤）田畑善之　――→（正）田畑義之

九州大学附属図書館報「図書館情報」　Vol. 36,　No. 2（通巻196号）
編集発行　九州大学附属図書館　2000年 9月30日
〒812-8581 福岡市東区箱崎 6 丁目10番 1 号　電話(092)642-2336（ダイヤルイン）